

共感と対話から生まれるインクルーシブ保育の実践検討

▶▶▶▶ 地域子ども教育学科 教授 那須とよみ

1 - 教育理念

○名古屋市公立保育園にて保育実践経験と園長や市役所の行政勤務を経た管理職としての保育行政や地域連携経験を活かし、保育の基礎(保育原理)を担当しています。

特に幼児教育や保育という教育・福祉を専攻する学生には、「命を預かり、守り育む」現場として、乳幼児保育・教育の必要性や生涯に渡り影響を及ぼすと言われる愛着形成を基にした人間関係と「あそび」の重要性を理解し、インクルーシブ保育・教育についても、共に学びを深めているところです。

○子育て支援センターや休日保育園の経験から、子どもの権利の視点や保護者ニーズから子育て支援や相談事業等から鑑みた、今後期待される保育内容や相談支援活動も学んで頂いています。

○近年保育・教育現場の事故や事件などの記事が多くありますが、その原因や対応を踏まえ、背景の捉え方や今後の対策等についても考えを深めていきたいと思えます。



2 - 最近の研究

○「幼児教育における『環境』と『人間関係』に関する一考察」

(浜松学院大学短期大学部研究論集第20号)

○「統合保育からインクルーシブ保育へー協同的遊びにおける支援の考察ー」

(日本保育学会 第75回大会 ポスター発表)

○「インクルーシブ保育における保育計画の考察ー『個別支援計画』と防災についてー」

(日本保育学会 第76回大会 ポスター発表)

3 - 保育実践センター「はまりす」が保護者や子ども達と学生連携

○学生が学内で地域の子ども達や保護者の遊び等に関わる事で、机上の学びから身近な観察や具体的な体験を通して実践力の素地を養う場として

「保育実践センター(はまりす)」の企画、運営を積極的に取り組んでいます。

○幼稚園・保育園・こども園や園長会主催の研究会の講師、中学・高等学校への出前授業など、公立・私立を問わず、現場との連携を行っていきます。どうぞ、お気軽にお声がけ下さい。

